

「ナノガラスシンポジウム」の報告

ニューガラスフォーラム事務局

Report of the Symposium on the Nanotechnology Glass organized by NGF



2007年4月4日(水)–6日(金)、ビックサイトで開催された、国際セラミックス総合展で、“ナノガラス”の展示とシンポジウムを当フォーラムが主催しました。初日は、午後から春雷と共に急に暗くなり、棒雨と強風に見舞われましたが、シンポジウムの5日は打って変わって、うらかな日和でした。

“ナノガラス”プロジェクトは、経済産業省・NEDOから当フォーラムが受託して、NGF会員11社と2独立行政機関研究所、6大学間の共同研究として、平成13–17年度まで実施したものです。“ナノガラス”の名付け親は経済産業省です。

最初に、プロジェクトリーダーだった平尾一之・京大教授から、「ナノガラスは、そのコン

セプトから研究成果まで、日本が世界をリードして来た」と述べられました。そして、日本が“ナノガラス・テクノロジー”と呼んだのに対して、最近、欧米では“Nano Structured Glass”の名称で研究を開始しているとの事でした。更に、今年の7月に仏のストラスブルグで開催される国際ガラス会議（ICG）では、ナノガラスに関する研究が各国から報告されるであろうとの事でした。平尾教授はICGの日本代表委員です。また、このプロジェクトに参加した、京大、北陸先端大、三重大、名工大、東大、東北大の6大学から、この間に約400人の卒業生を出しており、人材育成の役割も果たしたとのコメントもありました。

次いで、村山明宏・東北大准教授の説明があ

りました。先生は、ナノガラスプロジェクトの成果を製品化するための“フォーカス21・ナノガラス”というプロジェクトのリーダーでした。その後、産業技術総合研究所の西井準治・主幹研究員、日立研究所の山本浩貴・主任研究員、日本板硝子の常友啓司グループリーダーからの説明が続きました。

なお、展示では、説明パネルの他に、三次元光回路、ナノ粒子蛍光ガラス、分波集積素子、高効率深溝回折格子、ROM型、記録型光ディスク、広帯域低PDL回折格子が各社から並べられていて、分かりやすかったと好評でした。



実は、シンポジウムは、我々のあずかり知らぬところで参加費が7千円と決められました。そのため、聴衆が集まるかと非常に心配したのですが、当日は、70名弱の参加を得ました。また、質問も活発に出て盛況な会でした。

なお、シンポジウムの会場は、ビックサイトの入り口の、台形を逆さにしたような巨大モニュメントの中の空中に浮いた会場であり、そこまで昇る斜めのエスカレーターは、私が経験した最長のものでした。何時もであれば、この下を素通りして展示会場に入ってしまうところを、今回は、このモニュメントの中を見学でき、これが初めてだった人も多かったらしく、予期せぬ収穫でした。

